

さいたま市長 5月定例記者会見

平成27年5月8日（金曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。  
それでは、記者クラブ幹事社の共同通信社さん、進行をよろしく願い  
いたします。

○ 共同通信 5月の幹事社を務めます共同通信と申します。よろしくお願いいたします  
す。  
それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長からご説明をお願い  
いたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。  
ことしのゴールデンウィークは良い天気にも恵まれましたが、皆さんは  
いかがお過ごしでしたでしょうか。市内でも多くのイベントが開催され、初  
夏を思わせる日差しのもと、私もたくさんのイベントに足を運び、大勢の  
来場者とともに楽しいひとときを過ごさせていただきました。

5月に入りまして、本市では節電及び省エネルギー行動の実践を呼びか  
けるため、「つづけよう ひろげよう 省エネ・節電～ひとりでもエコ！み  
んなでもエコ！～」をキャッチフレーズに夏のライフスタイルキャンペ  
ーンを実施しております。

クールビズの実施期間に合わせまして、職員はもとより、市民、事業者  
に対しましても、日常生活における無理のない形での節電及び省エネルギ  
ーへの取り組みを呼びかけてまいります。

ノーネクタイ、ノー上着はすっかり社会に定着してまいりました。これ  
から10月末までの間、軽装で軽快に仕事をし、また目前に迫っている暑  
い夏を乗り切っていきたいと考えております。

### 市長発表：議題「大韓民国 水原市との交流に係る覚書 締結及び訪問について」

では、本日の議題に入らせていただきます。本日の議題は、「大韓民国 水  
原市との交流に係る覚書締結及び訪問について」でございます。

来る5月28日より私をはじめとするさいたま市訪問団が大韓民国水原市との交流について覚書を締結するために水原市を訪問いたします。また、交流の一つとなります市民によるサッカー交流を実施するため、さいたま市サッカー訪問団を派遣してまいります。

まず、全体の概要からご説明をさせていただきます。日程でございますが、市長訪問団は平成27年5月28日から30日までの3日間、またサッカー訪問団は5月29日金曜日から31日日曜日までの3日間訪問いたします。訪問先は、韓国の水原市内であります。

訪問者は、市長訪問団のほうは私のほかに随員職員が3名、またサッカー訪問団のほうは団長以下17名でございます。このほか覚書の締結にかかる議員側署名のために、市議会に議員訪問団の派遣を依頼しております。

次に、水原市との交流の経緯について説明をさせていただきます。これまでの交流実績といたしましては、平成22年、2010年2月に開催されました第7回さいたまシティカップにおきまして、大宮アルディージャと水原三星ブルーウィングスが対戦を行いました。また、商工会議所同士、長年にわたって交流が行われております。また、ライオンズクラブ、あるいはロータリークラブなどの市民団体、あるいは市民絵画展の開催による市民レベルの交流など、スポーツ、文化、経済分野でのかかわりをこれまでも持ってきているところであります。

水原市は、首都との地理的条件、また人口規模、道庁所在地、多くの公官庁を有するなど、本市と多くの類似点を持つ都市であります。観光、教育、文化などの分野の施策に力を入れ、また環境に配慮する施策など、目指すまちづくりに共通する点も多い都市であります。市民におきましては、スポーツや文化の振興が盛んでありまして、特にサッカーは本市同様に競技が活発に行われている都市でもあります。

両市の交流については、平成24年、25年に水原市を訪問しており、また水原市長も過去3回本市にお越しいただいております。これらの相互訪問におきまして、相互交流について会談を行い、事務レベルでの調整を行った結果、交流の内容について同意が図られたため、今回の覚書締結を行うこととなりました。

次に、覚書の内容についてご説明させていただきたいと思っております。目的

としまして、さいたま市と水原市はこれまでの交流の経緯を踏まえ、良好な関係を強化するものとして友好的な国際協力と交流を発展させること、平和活動への寄与を図ることを目的に、相互交流について覚書を締結するものであります。

1点目としましては、両市民における交流の促進と友好関係の構築によりまして、国際平和に寄与することを目的として、市民が主体となって、両市において活動が盛んであるサッカー競技による交流を行ってまいります。

また、2点目ではありますが、今後両市の交流においては、お祭りでありますとか、あるいはイベント等の分野についての話もございます。新たな交流を行う場合は、両市による協議、また調整を図りながら、積極的な協力を行っていきたいと考えております。

最後に、全体の行程についてご説明をさせていただきたいと思っております。5月28日木曜日の午前中に出発しまして、午後に水原市に到着いたします。

5月29日金曜日の午前中には、商工会議所などでこれまでの両市の交流に係る方々への表敬訪問をさせていただきます。

また、午後はサッカー訪問団が水原市に到着をした後、合同で覚書締結の調印式を行わせていただきます。夜には、覚書締結レセプションへの参加を予定しております。

また、翌日30日土曜日ではありますが、午前中はさいたま市サッカー訪問団と水原市代表チームによりまして親善試合を観戦し、訪問団との交流を図ってまいります。また、夕方過ぎに帰国する予定であります。

なお、さいたま市サッカー訪問団につきましては、午後にも親善試合を行った後、翌日は水原市の世界遺産等を視察して帰国する予定となっております。

また、さいたま市議会議員訪問団につきましては、覚書の締結に議長もご出席をいただき、調印をお願いしたいことから、私から訪問団の結成及び派遣について市議会に依頼しているところであります。

韓国は、日本に隣接する外国の一つであり、国レベルではなく基礎自治体や市民だからできる交流を進めていきたいと考えております。お互いの

顔を合わせ、友好的な交流を発展させることで平和活動への寄与を図るとともに、市民の皆さんの国際化意識の高まりにつながるよう努力してまいりたいと考えております。

また、これらの交流がきっかけとなり、さいたま市の海外へのアピールにつながることを、またさいたま市に魅力を感じ、多くの方に来市いただけることも期待をしております。

私からの説明は以上です。

- 共同通信      ありがとうございました。

### 議題に関する質問

それでは、幹事社から1点、先ほどの発表について質問させていただきます。覚書の内容で、サッカー競技による交流や祭りやイベント等、新たな交流を行う場合もあるという内容でしたけれども、具体的に例えばサッカーのカップ戦みたいなのを新たにやるですとか、こういうイベントに人を出すですとか、決まっていたり検討されているものがあれば、具体的な中身について教えてください。

- 市長      現時点では、社会人レベルのサッカーの代表団が相互に行って交流を深めるというところまで (決まっております)。それから先は今後詰めていくということになるかと思えます。

- 共同通信      ありがとうございました。

それでは、先ほどの発表内容について、質問がある社さんをお願いします。

- 埼玉新聞      埼玉新聞と申します。

サッカー訪問団が団長以下17人ということなのですが、これはどういった内容なのか教えていただけますでしょうか。

- 事務局      観光国際課でございます。

今回の参加につきましては、サッカー関連団体、市内の関連団体に参加者の派遣協力を依頼いたしまして、募集を行いました。具体的には、さいたま市のサッカー協会から、市民の中でサッカー競技をしている方を選んでいただきました。そこに市の職員が団長として入りまして、合計17名になっております。

- 埼玉新聞 小学生ですとか中学生とか、そういうくくりで言うと、どんな感じなんですか。
- 事務局 今回はおおむね（社会人）お願いしてございます。
- 埼玉新聞 追加でもう一点なのですけれども、覚書を今回締結されるということなのですが、これは将来的には、友好姉妹都市提携を結ぶ前段階ですとか、そういったものの位置づけということでもよろしいのでしょうか。
- 市長 さいたま市は、これまで（6つ）の都市と姉妹都市提携を結んでいるのですけれども、姉妹都市の場合ですと全部包含する形で締結するのですが、時代的には全部の分野をやっていくというよりは、むしろそれぞれテーマであるとか具体的な交流内容を決めて交流をしていくことのほうがより効果が高いだろうということで、もちろん段階的にはいろいろな分野に広がっていくということは考えられると思っておりますけれども、将来的に姉妹都市というよりは、友好都市というのでしょうか、（パートナーシップ）都市というような位置づけの中でさいたま市としては考えておりますし、そういう交流のほうがよりお互いにとって効果的な交流ができるのではないかと考えています。
- 埼玉新聞 たびたび追加で申しわけありません。ちょっと大きな視野になってしまうのですけれども、今、日韓関係が非常にぎくしゃくしている時期を迎えていると思うのですけれども、こういった環境の中で相互訪問することで、市長ご自身としては、国全体の交流の中でこういった方向に交流が導いていくというか、その作用を及ぼすというか、そういった期待、関係の改善ですとか、そういったものに期待する点がありましたら教えていただけますでしょうか。
- 市長 現在の日韓情勢については、いろいろございますが、さらに隣国でありますので、友好関係を深める必要があると考えております。また、これまでも両市の民間レベルでの交流がかなり活発に行われてきておりますので、私たちとしては国レベルの交流ということではなくて、自治体だからこそできる、あるいは市民だからこそできる顔の見える交流というものとして今回の交流を考えております。国ではできない、市民の顔と顔がしっかりと見える、そういう交流をより一層深めていきたいと思っております。
- 読売新聞 読売新聞です。2点ほど教えてください。

まず、覚書を締結する相手というか、29日調印式で出席される先方というか、実際に署名する方はどなたになるのでしょうか。

- 市長 水原市の市長さんと、あと議会側からも両方出席をしていただくことになろうかと思えます。
- 読売新聞 もう一点なんですが、なかなか数字的に出すのは難しいかと思うのですが、両市の交流の規模的なものを示す数字があれば教えていただきたいのですが、例えば過去5年、10年に向こうから何人さいたま市もしくは埼玉県に来ているかですとか、さいたま市からこれくらいの方が向こうに渡っているとか、もしそういった数字があれば教えていただけますか。
- 市長 それは後ほどでよろしいでしょうか。  
(会見後追加：別紙1)
- 共同通信 ほかにありますでしょうか。

### 幹事社質問：今後の市政運営について

なければ幹事社からの質問のほうに移らせていただきたいと思います。幹事社から1点質問させていただきます。5月1日に市議会選挙後初めての議会が始まりましたけれども、改めて今後の市政運営に対する考えを教えてください。

- 市長 今回の選挙についてですが、まさに世代交代の選挙であったと感じております。また、これからの5年、そして10年がさいたま市の将来にとって最も重要な時期であると捉えています。というのは、推計ではあと10年ぐらい、平成37年ぐらいまではさいたま市の人口は増えるだろうと推計されておりますが、そこからは減少局面に入るということ、あるいは急激な高齢化が進むということもございまして、その減少が始まる前のこれからの5年あるいは10年というのが大変重要であると考えております。そんな中で、今回当選をされました議員の皆様と市の将来について、短期的なこともそうではありますが、あわせて中長期的なことも十分に議論を重ねて、「選ばれる都市」としてのさいたま市を目指していきたいと考えております。市政の発展を目指すという思いは、議員の皆様との間に違いはないと考えておりますので、引き続き目指すべき方向性を共有し、「市民一人ひとりが幸せを実感できる、絆にあふれたさいたま市、誰もが住んでいるこ

とを誇りに思えるさいたま市」を実現していきたいと考えております。

そして、これまでも市民意識調査でさいたま市が住みやすいと答えていただいている方が80%を超えてまいりました。昨年の数字では80.7%の市民の方々に住みやすいと答えていただいておりますが、これを2020年までに90%以上にしたいと考えておまして、これを全員の共通の目標にしていこうということで、今年度からCS90運動を進めていきたいと考えております。

以上です。

## 幹事社質問に関する質問

### ○ 共同通信

それでは、幹事社から1点質問させていただきたいと思ます。

今のお話の中で、住みやすいと感じる市民の方の割合を90%以上にしていきたいというふうなお話がありましたが、具体的にどの部分が今80%ということ、その10%分に該当するか、伸ばしていかなければいけないことだというふうにお考えですか。

### ○ 市長

この数値の中身というのは、いろいろな分析の仕方があろうかと思ますが、1つは交通であるとか、対行政ということだけではなくて、市と地域とのいろいろなかかわり合いということも含まれていると考えておりますので、市としての総合的な評価というか、感じ方であると考えております。これは、区によって若干数値の差もございます。その中で、私たちとしては今さいたま市として進めていこうと考えております「総合振興計画」、それからさらに重点的な取組としての「しあわせ倍増プラン」、「成長戦略」、あるいは「行革プラン」、こういったものをまずしっかりと推進していく、そしてさいたま市がどんなまちを目指しているのかということをも市民の皆さんに十分に知っていただく、ご理解いただくということも重要だろうと思っております。

またあわせて、そういったまちを行政と、そして市民の皆さん、事業者の皆さん、いろいろな団体の皆さんと一緒に力を合わせてこの90%を目指していくという取組をしていきたいと考えておりますが、行政としては、そのために一体何ができるのかということで、一つは市民への接客としてのサービスであったり、あるいはいろいろなアドバイスであ

ったり、あるいは相談にしっかりと乗って、しっかりと対応していくということであったり、やるべきことはたくさんあるかと思っております。そういった全体のまちづくりとしての計画に基づいてしっかりと進めていくということが一つと、さらによりきめ細やかな対応ということについてもあわせてしっかりとやっていきたいと思っております、それが市民満足度の高い、いわゆる住みやすいと言っていただける割合が90%以上にならっていくということにならうかと思っております。

○ 共同通信

ありがとうございました。

それでは、ほかの社さんで今回の幹事社質問について質疑がありましたらお願いします。

それでしたら、今月の幹事社質問以外で質疑があればお願いします。

### その他：さいたま市の観光の発展の可能性について

○ 埼玉新聞

埼玉新聞と申します。

世界経済フォーラムが6日に、2015年の旅行観光競争ランキングを発表しまして、日本が世界9位に入りまして、トップテン入りを果たしました。こういった結果から、ますます日本の観光が注目されるかと思うのですが、そこで市長にお伺いしたいのですけれども、改めてこれからのさいたま市の観光の発展の可能性がこういったところにあるのかということをお伺いしたいと思うのですけれども。

○ 市長

今9位に入ったということでありまして、大幅に伸びたということですよ。ただ、潜在的にはもっともっと順位が上がる可能性、また余地があるのではないかと思っております。そのために、日本全体として取り組むこともあります、さいたま市としてはやはり独自の文化ということで、例えば盆栽であるとか、鉄道であるとか、人形であるとか、あるいは漫画であるとか、さいたま市が世界に誇るべき文化もございますので、そういった文化を大いに活かした施設もございますけれども、取り組みを行っていくということが一つだろうと思えますし、またあわせてさいたま市はスポーツのまちづくりをしておりまして、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム、あるいはさいたま国際マラソンといったような非常に大きなイベント、国際的な事業、大会も予定されておりますので、そういったこ



となどについても、これから日本国内だけではなくて、やはりアジアとか、もう少し幅広い範囲で私たちとしてもPRして、そして多くの方々に来ていただくということに取り組んでいきたいなど。

盆栽については、国のJETROなどとも組みまして、ジャパンプランド化事業ということで、ちょうどことしの3月にもアンテナショップをフランスに出させていただいたりということもあって、外国人観光客がかなりさいたま市に来ていただけるようにもなりました。そういったさいたま市の持っている独自の文化をもっともっとPRしたいというのが一つです。

それから2つ目が、やはり観光に重要な要素として、「食」ですね。さいたま市もさいたまるしゅということで、さいたま市のいわゆる食文化を大いにPRしていこうということで、スイーツをはじめ、ヨーロッパ野菜とか、いろいろなブランド化、それからおいしいもののイベントなどを行っておりますけれども、食の果たす役割というのは大変大きいと思っておりますので、観光で見る、あるいは体験するというだけでなく、プラス食べるということの楽しさなども味わっていただけるような取り組みを充実させていく必要があるだろうと思っております。

また、そういう意味ではサービスのインフラというベースでのWiFiの整備であるとか、あるいは表示、観光の案内板、こういったものに外国語表記を入れていくとか、こういったことは基本的にできるだけ早急に進めていかなければいけない課題だろうと思っておりますけれども、できるだけさいたま市らしい魅力をいろいろな形で発信をしていきたいと思っております。

#### ○ 埼玉新聞

ちょっといろいろと羅列していただいたのですが、とりわけ文化というところをおっしゃっていたかと思うのですが、その観光競争力ランキングで今回1位になったスペインは、文化面で観光資源が豊富なことに加えて、それをインターネットで情報を集める傾向が強くなっていてランキングが上がったのではないかということを言われているのですが、先ほど市長のお話の中で、PRだとか、そういったものもあったと思うのですが、海外からいらっしゃる方々へのPRの仕方、盆栽なり、鉄道なり、人形なり、あと実際にいらした方々への見せ方、日本特有のものなので、なかなか外国の方ってわかりにくいようなところがあると思うの

ですけれども、そういった工夫というのを、何か今のところこんなこと考えていますということがあったら、お考えをお聞かせいただきたいのですけれども。

○ 市 長

現状としては、例えば大宮盆栽美術館などでは、盆栽の写真とか盆栽美術館の状況などをフェイスブックで今発信をさせていただいておまして、毎日新しい盆栽が出ると、そこに書き込みがあるのが、日本人もあるのですけれども、外国人の方の反応のほうがたくさん書かれているというぐらい、今大宮盆栽美術館の「いいね！」というのが1万件を先般超えまして、これは日本国内のフェイスブックの、国内の博物館とか、そういう美術館関係の中では5番目にランクされるのだそうです。それで、かつ（8割）ぐらい、外国の方々が「いいね！」というのを押していただいているのです。ですから、さいたま市にとっては大変大きな売りになると思っています。

それから、あわせて今内閣府で日本の文化ということで定期的に情報発信をされているのですけれども、その中にも大宮盆栽美術館所蔵の盆栽などを掲載していただいて、これもたくさんの反応が寄せられておりますので、そういったSNSなどを積極的に活用して、リアルタイムのいろいろな楽しいことであったり、あるいは盆栽など、実物であったり、そういったものを発信をしていくということが大変重要なんだろうと思っています。

それから、お越しいただいた方々に対してですけれども、まだこれからの取り組みになろうかと思っておりますけれども、1つは、英語、あるいは中国語等々、多言語表示をしていく、あるいはその説明ができるような環境づくりというのはやはりしていかないと。これも日本が必ずしもそういった観光でのランキングが余り高くなかったというところのベースには、やはりそういったところに必ずしも十分に配慮されていなかったというところがあるかと思っておりますので、そういったことについては積極的に多言語で表記をしていったり、あるいは説明をしていったり、あるいは発信をしていくということについて心がけていきたいと思っております。

その他：保育所の待機児童について

- 朝日新聞 朝日新聞です。
- 保育所の待機児童の問題なんですけれども、待機児童が解消されるかどうか、あと数字とか出ていたら、あと細かい数字は別としても、そのめどみたいなものが出ていれば教えてください。
- 市長 まず、待機児童の数については現在集計作業をしているところで、めどとしては5月下旬ぐらいに発表ができるのではないかと考えております。
- その中で、今さいたま市としては今年度予算で、この28年度4月の開設に向けて、認定こども園を含めた認可保育所の数を1,120人増加させる施設整備を予定していたり、この5年間に子育て支援に関する事業、あるいは認可保育所などを充実させる計画をつくったところでありますので、それを少し前倒しするような形で充実を図っていきながら、とにかく待機児童ゼロに一日も早くできるように努めていきたいと考えております。数字については、5月下旬ぐらいまでお待ちをいただきたいと考えております。
- 朝日新聞 ことしの待機児童ゼロの達成はちょっと難しいのか、それともできそうなのかということ、感触的にはいかがでしょうか。
- 市長 今のところまだ作業しているところですので、申しわけありません。

### その他：大阪都構想について

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
- 大阪都構想についてお伺いしたいのですが、5月17日に大阪市の橋下市長が唱えていらっしゃる大阪都構想の是非を問う住民投票が行われると思うのですが、これにつきまして、まず市長はどのようなふうにごらんになっているかというのがまず1点と、もう1点は、ここから何かさいたま市として参考にできるような、学べるような何かお考えがあれば、市長のお考えをお聞かせいただけますでしょうか。
- 市長 今度5月17日に大阪都構想についての住民投票が行われるわけですが、これまでも政令指定都市市長会などでこの大都市制度のあり方について、いろいろ私も議論を進めてきました。その中で、この大都市制度のあり方として、各都市がその規模あるいは歴史、文化の違い、あるいは国や広域自治体との関係性、あるいは地域の中での果たす役割など、それ

ぞれ政令市だけでも20あるわけですが、それぞれがやはり違った特徴を持っているという状況がございますので、それぞれの地域の実情に応じた体制ができる制度がいいだろうということで、特別自治市を中心にしながら、多様な大都市制度のあり方ということを私たちとしては包含した形で、大阪都構想についても一つの地域の実情に合わせた地方の大都市としてのあり方であると認識をして、またそういった議論の中でもそういうふうな位置付けをしてまいりました。

そういった新しい大都市制度に今回取り組んで、その結果が出てくるということでもありますので、大変注目をしているというところではありますが、たださいたま市としてはどうかというと、私たちとしては基本的には特別自治市、基礎自治体が基本的にはベースになって、基礎自治体でできないところについて、それを補完するために広域自治体があり、そしてそれができないところを国がサポートしていくという、いわゆる補完性の原則がベースにあると。やはり住民にできるだけ近くの自治体がそういった自治の中心にあるべきと考えており、私たちとしては基本的には特別自治市をベースに捉えておりますので、大阪都構想という考え方とは少し違うと考えております。

○ 埼玉新聞 関連してなんですけれども、大阪都構想がいわゆる広域の行政に関しては都で行うというのと、地域行政が特別区で行うという考えなんですけれども、それには地域ごとに異なるニーズに対応できるように、区役所に権限を非常に多く移譲するという考えがあるんですけれども、さいたま市ではその辺について例えばもっと、今10区ある中で、もうちょっと区に権限を移管していくとか、そういうお考えというのはございますでしょうか。

○ 市長 私も6年前に当選して以来、政令指定都市になって、10区の区でこの行政サービス行っているわけですが、やはりパイが大きくなって、スケールメリットを活用してやったほうがいい仕事と、各区に権限あるいはサービスそのものがあって、きめ細やかに対応したほうがいいものということについて、随分これまでも検討を行い、またいろいろな形でそれに取り組んで、実際に実践もしているという状況であります。これからもさらにいろいろな検証をしながら、この2つの視点がすごく重要で、さいたま市の場合は4つの市が合併してできた都市でありますから、この4つの

市が合併したことによって、このスケールメリットを生かして効率化を図れるものと、あるいはもっときめ細やかに、今までは40万以上の都市だったわけですが、もっと市民に身近な形でサービスを行ったほうがいい分野と、しっかりと区別をしながら対応していくべきだと思っておりますので、それらの取組、あるいは改革についてはこれまでもやってきたつもりでいますし、これからも引き続き検討し、実施をしていこうと考えております。

## その他：区長マニフェストについて

○ 埼玉新聞 関連してなのですが、先日各区長から区長マニフェストというのが発表されましたが、この中で市長が何か注目される施策みたいなものがございましたら教えていただけますでしょうか。

○ 市長 区長マニフェストの中では、かなり区の独自性を出しているものが大分増えてきましたので、これはソフトの分野でありますけれども、それぞれの区の特徴、例えば岩槻区でやるイベントであるとか、それぞれの地域の歴史だとか文化だとか、そういったものを背景にした取り組みということが年々充実をしてきているということについては、大変評価をしているところであります。

また、マニフェストの中でも、予算の中で決められた部分と、あとはもう少し身近な組織内のいろいろな取り組みみたいなこともありますので、両方とも大変重要なことだろうと思っておりますから、区長さんたちがしっかりと目標、あるいは達成すべき成果というものを意識をして、またその地域の特性に合わせて区政運営を行っていく、取り組んでいくということは大変重要だと思っておりますので、ことしのものについてはどうかということについて言えば、年々個性的にはなっているかなという印象だということです。

## その他：県からの権限移譲について

○ 朝日新聞 朝日新聞です。

関連してなんですけれども、市長のおっしゃられている特別自治市、市長のイメージでいいのですけれども、現状で広域自治体の埼玉県との関係

で、さいたま市のほうに移譲してもらいたい権限とか、さいたま市がやったほうがいい仕事というのは、どのように具体的にお考えなんでしょうか。

- 市長　　これまで課題の一つであった（県費負担教職員については、平成29年度に給与負担等の権限が政令市、さいたま市にも委譲されますので）そういう意味では今まで課題であったことの一つは、そこで解決はしていくのだろうとは思っていますけれども、今後のことと言うと、今県と市とで企画調整会議などですみ分けをし始めていますので、かなり整理ができてきているのではないかと考えていますけれども、ただ権限と財源はいずれにしてもセットなので、県がやっている権限を市のほうで引き受けてやる場合には、当然その権限と財源、両方があって初めてなし得ることなのだろうと思っておりますので、現時点ではこの件についてというのはすぐには浮かびませんが、ただどうしても、県が広域的な視点でやっている例えば河川行政などについても、これは市だけでやれるかという、河川の治水対策の場合は下流域からずっとやっていかなくてはいけないという事情などもあるので、市が勝手に全てやってしまうというわけにはいかない部分もあろうかと思えます。現時点ではかなりの部分、調整がつつつあると思っています。

- 共同通信　　ほかにありますでしょうか。

それでは、どうもありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。

- 進　　行　　以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

次回の開催は5月21日木曜日1時半からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

午後2時09分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（　）とし、下線を付しています。

## (別紙 1)

さいたま市と水原市の交流に参加した人数について

H24. 4. 24-29 (派遣) 第 12 回昌原国際教育都市連合世界総会への参加に合わせ、兼ねてより交流の話があった水原市を訪問、交流の可能性について会談を行った。

さいたま市長訪問団 他 18名

H25. 4. 15-16 (受入) 水原市長をはじめとする水原市訪問団 14 名が来市大都市制度等の視察研修の他、両市の交流実現に向けた会談を行った。

水原市長訪問団 14名

H25. 9. 1-2 (派遣) 「エコモビリティ 2013 水原会議」への参加に合わせ、水原市長と交流に向けた会談を行った。

さいたま市長及びさいたま市職員 6名

H26. 9. 25-27 (受入) 水原市長訪問団及び市民による水原市サッカー訪問団が来市、埼玉大学とサッカー親善試合を行った。

水原市長及び水原市サッカー訪問団 38名

H27. 4. 20-21 (受入) 水原市長訪問団及び研修団が来市さいたま市及び日本の制度・施策について研修を実施した。

水原市長 他 17名

【派遣人数】 合計 24名      【受入人数】 合計 69名